

「三陸の豊かな資源を生かした 観光地域づくり」

震災から6年

まもなく震災から6年が経とうとしています。未だ仮設住宅や避難地域で暮らす方々も多く復興まで道半ばではありますが、三陸復興道路の建設、三陸鉄道久慈〜盛岡全線開通の発表など交通網を中心にインフラ整備が進められ、少しずつですがそれぞれの町づくりで新たな三陸地域に生まれ変わろうとしています。

観光産業はその他の産業と密接した関係にあります。震災後に訪れた方々を含め「もう一度訪れたい三陸」にしていくために、地元の資源や人材を有効活用出来る地域に育てていくことが鍵になると感じています。

観光業に携わる

私は岩手で生まれ育ちました。旅好きな父

の影響もあり、幼少の頃から休日になると、もっぱら鉄道やバスを利用して旅に出かけ、小学生の時には一人で何処へでも行けるようになっておりました。今考えると観光業へのあこがれは既に小学生の頃からもっていたのだと思います。

その後10年間観光業界に携わり、その経験を生かし自分で事業を興したのちは、「岩手」の魅力にはまり、世界中に伝えたいとの思いから岩手県内の資源の発掘を行なっておりました。震災をきっかけに主に首都圏で岩手の復興支援に努め、今回当センター設立を機会に2016年7月より観光プロデューサーに就任いたしました。

日本版DMOとは

近年、各地でDMOという言葉が聞かれるようになりました。DMOとは「Destination Marketing/Management Organization」の



公益財団法人さんりく基金/
三陸DMOセンター
観光プロデューサー
北田 耕嗣

略で、「観光+地域づくり」の観点から地域自らがマーケティング機能とマネジメント機能を持ち、「住んでよし、訪れてよし」と言われる地域を創る組織体の通称です。「三陸DMOセンター」は岩手県内三陸沿岸13市町村地域を対象エリアに、地域連携を推進していく組織として2016年日本版DMO登録候補法人として認定されました。

観光地域づくりの視点で 取り組む

日本でも旅の目的は、ここ数年で大きく変化しています。有名観光地を巡る物見遊山型と言われる旅から、そこに住む地域の人々が地域を愛し、生活を楽しんでいることに共感したいという旅へシフトしています。

往々にして同じ場所で生活をしていると、地域の魅力は当たり前になり、地域の価値に気づかぬままであることがあります。まずは

地元の魅力に気づくこと、そして外からの視点を含めて様々な人々が交流する機会を増やしていくことが観光地域づくりの一步となるのではないのでしょうか。

首都圏からの受け入れ

震災以降、多くの方々を三陸へご案内いたしました。訪問先では主に震災当時の経験談を伺い、漁業のボランティア活動や、防災に役立つプログラム学習などを行なっております。

ある企業研修で「もうすぐ会社を辞めようと思っています。そこで最後に震災ボランティアをしようと思ってきました」と話してくれた関西から来た方がいました。そして、その方を含め1月の最も寒い時期、全国から30名の方々が岩手に集まり復興支援活動を行なっていました。

三陸沿岸で漁師さんが育てた牡蠣を一つ一つきれいにしていく作業を通して、品質の良い美味しい牡蠣を食べられる背景を学びます。しかしながら三陸の寒さは身を切る程で、海風の下での立ちっぱなしの作業は腰も痛くなつてきます。しかし誰も弱音を吐くこともなく作業を続けました。ボランティア終了後は宿舎で三陸の魚介類を囲んで懇親会。日中の苦勞も地酒で吹き飛び、三陸で初めて会った社員同士が一気に仲良くなる瞬間は、私達受け入れ側にとっても楽しい時間でした。



収穫した牡蠣を前にした研修生・地元の漁師の皆さんと北田さん（右端）

後日、例の辞める予定の参加者の方から「仕事辞めません！自分が辛いと思っていた仕事は、三陸の方々からすると何でもないようなもの。自分が恥ずかしかった。仕事に一生懸命取り組みます！」というメールがあったとの報告でした。幹事の方にその後の様子を伺ったところ、現在は中堅リーダーとして立派に勤められているそうで、三陸の旅は人を成

長させる機会を創る場でもあると改めて気づかされた出来事でした。

インバウンドを視野に、岩手を観光産業で盛り上げる

近年政府が本気で取り組み始めた結果、観光産業は国内で唯一、成長産業と言われるようになりました。訪日観光客は2015年度に2千万人を突破し、経済波及効果が期待されております。2020年までには4千万人を目標に掲げていますが、岩手には未だ9万人程度しか訪れていません。人口減少とともに国内観光客が減るなかで、増加する訪日観光客を岩手に誘客することは今後の重要な課題の一つでもあります。

オンラインワンの三陸観光産業を目指して

三陸を訪ねると、新鮮で美味しい食材を提供する生産者の方、震災の体験を伝えるガイド、海を活かした体験コンテンツの実践など、様々な取り組みをしている人達にいつも驚かされます。今後は、三陸地域内での連携推進や、観光資源の継続的発掘、そして多種多様な仲間づくりのお手伝いなどを中心として役割を果たしていきたいと思っております。